



2016年6月10日

秦野市長 古谷 義幸 様

渋沢丘陵を考える会	代表	日置乃武子
秦野の自然と環境を守る会	代表	山本とし子
秦野のホテルを守る会	会長	吉田 嗣郎
丹沢・未来プロジェクト	代表	栗原 孝司
さんげつ会	事務局	山田 芳枝

(各印省略)

渋沢地区・霊園工事区域におけるノスリの営巣放棄の原因究明 及び保護対策の緊急見直しについて（要望）

私どもは、本年1月26日付けの貴職宛の要望書「渋沢地区・霊園開発地におけるノスリ保護対策の抜本的拡充強化について」において、昨年初めて進入路の近くで営巣したノスリの繁殖を今年も保証するよう特別の対策を求めました。幸い貴職から「特に繁殖時期においては特段の配慮をする」とのご理解をいただき、事業者に対する一定のご指導が行われました。しかし、残念ながら今期は営巣放棄という最悪の重大事態を招く結果となりました。

1 市の立ち会いのもとに放棄巣の現状把握

巣の現状については「巣がなくなっている」「落巣・落下」「巣がなくなっている」「巣の形態をなしていない」「営巣できない状態」「一部が欠けるなど形状が変化している」……等々、関係者の情報が錯綜しておりその実態は不明です。

一方、事業者は「ノスリに対する影響が小さくなる時期を待つてモニタリングの中で巣の状態を確認することを検討中」とのことです。

しかし、6月中旬になっても再営巣が認められず、他所に営巣していることも確認できないという状況下で、節度をもって当該営巣中心域及び営巣木の調査・検証を行っても何ら問題はないと考えます。貴職におかれましては、事業者に対し、市職員および専門家の立ち会いのもとに早急に巣の正確な現状把握を行うよう真摯なご指導をお願いいたします。

2 営巣放棄の原因の究明

(1) 一般的にはまず工事の影響によるものと考えられます。事業者がもつとも心配していたことも「工事に起因する要因により対象猛禽類の繁殖に悪影響が及んでいる可能性」であり、そのときには「不測の事態を避けるため工事の一時中止等の配慮を行う」と再三明言しています。

(2) 次の原因として浮かび上がってくるのは、今回の事例を含めてノスリの巣が過去3回落下したり消えて無くなったという事実です。

- ① 2012年 繁殖後に落下（事業者は強風の影響と推察）
- ② 2015年 2月9日、私どもが確認。人為的な破棄の疑いあり
- ③ 2016年 3月9日、アセス会社が落巣していることを確認

①と②は長年使われてきた、きわめて安定した同じ巣（以下、旧巣と呼びます）です。③は旧巣から約180メートル離れた今回営巣放棄が確認されたものです。2つの営巣中心域は重なり合っており、その狭い範囲の中で約3年半の間に3回も巣の「異変」が発生し営巣放棄が行われたのはきわめて不自然で、人為的な工作の可能性も排除できません。②については何者かが巣を落下させたことが営巣木に残された梯子の傷跡や人の足跡などから疑われるにもかかわらず、事業者も行政も問題視さえしません（毎日新聞2016年年6月1日付け）。③については、ノスリの大きく頑丈な巣が1年もたたないうちに自然に落下したり、営巣を放棄するほど破損することはほとんどあり得ないことです。

貴職は、平成26年1月24日の知事宛回答書において「自然環境保全の必要性が判明した場合は、必要な措置を講じるよう事業者に対してご指導をお願いします」と要請しておられます。これを踏まえて、県とも連携をとった上で連続した「異変」の人為的な可能性も含めて厳正な調査・検証を行うよう要望いたします。

その他の原因として、たとえば、①繁殖期だけでなく通年にわたる工事の影響 ②採餌場の縮小・消失 ③事業者からの報告が口頭で不正確かつ遅い ④国指針が遵守されていない、⑤繁殖期のみを観察で通年にわたる継続的な観察・調査体制がとられていない、などが考えられます。

3 工事計画とノスリ保護対策の見直し

以上、原因と思われる個別具体的な問題点をいくつかあげましたが、私どもはノスリの営巣放棄は大局的には工事計画と環境保全対策の破綻を物語っていると受け止めています。たとえば、事業者の委託したアセス会社は次のように報告しています。

「(猛禽類については) 営巣環境の樹林地が減少することに対しての影響は回避できない。影響の低減措置として、現存の二次林に近い樹林になるよう計画した緑地の整備と、猛禽類の採餌場としての機能も果たす芝生墓地等の整備により、生育環境を保全することで影響は少なからず軽減されると評価される。」

「工事中および工事完了後まもなくは、生息環境の消失・減少等の不可避の影響が発生するが、供用開始10年が経過する頃には、『生物と生物環境との関わり及び生物多様性に著しい影響を及ぼさないこと』とする目標を達成できると評価される。」(秦野市渋沢地区の霊園建設に係る自主的環境影響予測評価書【概要版】)

芝生墓地が猛禽類の採餌場になり、10年後には生物多様性が元通りになる、このような現実にはあり得ない「評価」に基づいて工事計画と環境保全対策が立てられ、それが貴職によって最終的には是認され、霊園建設の許可が下されました。その結果がどうなったのでしょうか。滅びゆく、あるいはすでに滅んだすべての生物を代表してノスリはハッキリ目に見える形で答えを出しました。

貴職におかれましては、事業者に対し客観的に営巣放棄の原因を究明し、これまでの環境保全対策を根本から見直し、早急に市・県に報告するようご指導くださるよう緊急に要望いたします。なお、工事計画等については後日改めて要望いたします。

6月市議会のさなか、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、6月17日までに文書にてご回答くださるようお願いいたします。

以上

〈連絡先〉 〒257-0013 秦野市南が丘2-2-6-204
小日向 彰 電話 81-5476 (FAX 兼用)